

## 海洋理工学会平成 22 年度春季大会プログラム

5月20日(木)

### 一般講演

10:00-12:00 **観測・機器開発** 座長 千賀康弘(東海大海洋)

A1. 南太平洋の潮位について

岩崎杉紀(防衛大)、久保田尚之(JAMSTEC)、佐々木保徳(防衛大)

A2. 多波長蛍光光度計を用いた赤潮プランクトンの定量

西林健一郎(いであ)、堀内智啓(JFE アドバンテック)、原田洋一(Ids)

A3. 衛星リモートセンシングを用いた水質の異なる水域での Chl-a 濃度推定

松井佑介、青山隆司(福井工大)

A4. 海底近傍における半導体短波長レーザーの伝搬特性とその応用

岡本章吾、齋藤 隆(三菱電機特機システム)、吉田 弘、石橋正二郎(JAMSTEC)

A5. 海水の電磁場応答に関する基礎研究 吉田 弘(JAMSTEC)

A6. 温度検定システムの開発 - 恒温槽内の超高精度温度安定化技術 その 1-

馬場尚一郎(JAMSTEC)

### シンポジウム「海水塩分の新しい定義 ~ 海水の物理・化学標準 ~」

コンピナー: 中田喜三郎(東海大海洋)、石田和憲(環境総合テクノス)

13:00-13:40 S1. 新しい海水の状態方程式と塩分の定義について 河野 健(JAMSTEC)

13:40-14:10 S2. 水温・塩分の自動検定システムの紹介 虎尾 彰(JFE アドバンテック)

14:10-14:40 S3. 塩分データの品質管理と新定義に対する処理 雨池健一(鶴見精機)

15:00-15:40 S4. 海洋関係化学分析用標準物質と国際化の現状 太田秀和(環境総合テクノス)

15:40-16:20 S5. 無機化学標準とその計量学的トレーサビリティの現状 日置昭治(産総研)

16:20-17:00 S6. 温度標準とそのトレーサビリティ 丹波 純(産総研)

17:00-17:40 S7. 気象庁における海洋観測データの高精度化と品質管理 中野俊也(気象庁)

18:00-20:00 イブニングセッション

5月21日(金)

### 一般講演

09:30-11:30 **機器開発** 座長 月岡 哲(JAMSTEC)

A7. 詳細な姿勢角再現のための動物装着型データロガーの開発

野田琢嗣、荒井修亮(京大院情報)

A8. AUSOMS Version 3.0 の開発

新家富雄、鴨志田 隆、江本博俊、清水 浩(SIT)、服部真人(BAT)、三田村啓理、市川光太郎、荒井修亮(京大院情報)

A9. 海底地震計用トランスポンダにおける誤作動の原因究明

前川拓也、菅野真人(日海事)、伊藤 誠(JAMSTEC)

A10. 海底鉱物資源探査に向けた高精度電磁探査機器の開発 - 基礎データ取得に向けた浅海域での試験観測 -

石川秀浩(MINDECO)、馬場久紀(東海大海洋)、光畑裕司(産総研)

A11. 海中探査機 PICASSO の抵抗推進性能向上に関する検討

渡邊佳孝(JAMSTEC)、鈴木博善、北本理沙、山道 淳(大阪大)、井上朝哉、吉田 弘(JAMSTEC)

A12. 作業型無人探査機「MR-X1」による海中作業

石橋正二郎、吉田 弘、百留忠洋、澤 隆雄(JAMSTEC)

11:30-12:10 総会・学会賞表彰

13:00-14:00 **ポスターセッション**

---

P1. 有害化学物質生物蓄積モデル-Windows 版プロトタイプの開発-

柳田圭悟、江里口知己(SAT) 小林憲弘、堀口文男(産総研)

P2. 海洋理工学の研究北極海とオホーツク海における気温変化に対する海氷内温度と熱フラックスの応答性の比較

落合健(東海大)、角田晋也(JAMSTEC)、岩崎杉紀(防衛大)、中田喜三郎(東海大海洋)、佐々木保徳(防衛大)

P3. 海底下 100m 程度までの鉱床探査用海底電磁探査機器の試作

石川秀浩(MINDECO)、馬場久紀(東海大海洋)、光畑裕司(産総研)

P4. 海底探査における高精度慣性航法装置PhinsDVL の利用例

山本富士夫、牧 哲司、渡辺耕二郎、月岡 哲(JAMSTEC)

P5. 海水の密度測定法の検討

鶴島修夫(産総研)、今井圭理(北海道大)、成田尚史(東海大)

P6. Precise control of LED Multi Colors - PWM Optical Resource System.

Ken Ishii and Go Takayama (NRIFE, FRA)

P7. 有害化学物質生物蓄積モデル開発のための魚類中コプラナーPCB 蓄積量の調査

小林憲弘(産総研)、亭島博彦(海生研)、江里口知己(SAT)、堀口文男(産総研)

P8. 小型舟艇による船底汲上海水連続計測における採水深度の船速依存性の利用

千賀康弘(東海大海洋)

P9. Results of Stability Test of RMNS for 6 Years and Improve Comparability of Nutrients Data

Kenichiro Sato (MWJ), Michio Aoyama (MRI), Susan Becker (SIO)

14:00-15:00 **生態系モデル**

座長 眞田 武(日本港湾コンサルタント)

A13. 青森県における六ヶ所沿岸海域流動モデルの構築と検証

植田真司(環境研)、竹内一浩、沓掛洋志(いであ)、中田喜三郎(東海大海洋)、印 貞治、島 茂樹(海洋財団)、久松俊一(環境研)

A14. 海洋における有害化学物質生物蓄積モデルの研究-東京湾マアナゴモデルのバージョンアップ-

江里口知己(SAT)、中田喜三郎(東海大海洋)、小林憲弘、堀口文男(産総研)

A15. 伊勢湾におけるアサリ浮遊幼生の移送分散シミュレーション

市川哲也、江里口知己(SAT)、日向野純也、藤岡義三(養殖研)、長谷川夏樹(北海道区水研)

15:00-16:00 **生態系モデル**

座長 畑 恭子(いであ)

A16. 藻食動物の摂餌圧を考慮した一年生海藻の伝搬増殖モデル

眞田 武(日本港湾コンサルタント)、工藤盛徳、中田喜三郎(東海大海洋)

A17. 底生生態系を考慮した水質解析 大野創介(産総研)、中田喜三郎(東海大海洋)

A18. プランクトンを細分化した新たな海洋炭素循環モデルによる中・深層域における微小生態系現存量の評価

茂木博匡(東海大海洋)、山本佑也、岸 靖之(環境総合テクノス)、中田喜三郎(東海大海洋)